
透析専門医療・介護現場における腰痛対策の意義

社会福祉法人照善会 こくら庵
医療法人衆和会 長崎腎病院

○福本 駿 小松利恵子 上谷しのぶ 林涼子 船越 哲

【目的】

医療・介護現場の腰痛件数は年々増加しており、ほぼ全員が透析患者である当法人の腰痛保有率も77.3%と高率である。この要因として、現場では患者・利用者の安全が優先する意識が強いことが考えられる。今回職員の安全を守る職場を構築する目的で、腰痛リスクを調査し対策を行った。

【方法】

全職員に腰痛に関するアンケートを実施し、腰痛に繋がっている業務を解析し、ノーリフトケア®の考え方を元に対策検討を行う。

【結果】

アンケートの結果、患者の移乗等の介助、不良姿勢での穿刺や止血業務などが腰痛のリスクと考えられた。対策として不良姿勢の禁止、移乗マニュアルの作成、負担軽減のため福祉用具の導入を行い、現在この効果を検証中である。

【考察】

腰痛リスクマネジメントの体制を構築し、労働安全衛生水準を向上させることで、職員の安全管理のみならず、患者が安心してケアを受けられる環境作りに繋がると考える。